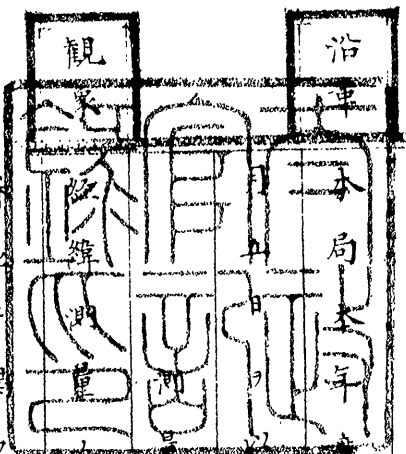


地理局第五回年報

沿革



ノ沿革ハ他ノ記スヘキナシ唯明治十三年三
テ地質課ヲ勸農局ニ附セラレタルノミ

事業タル本年度ニ於テハ三角測量点ノ位置

ルヲ要スルニ因リ西京大阪長崎ノ経緯度測量ニ従事

シ既ニ明治十三年五月ニ於テ時辰儀ノ電信比較ト天體

測量ノ業ヲ了シタリ其得タル所ノ経緯度ノ如キハ當時
精算中ニ属スルヲ故ニ後日ヲ待テ之ヲ呈セントス

三角測量

本年度三角測量換点ノ業ハ換点者ニ組ヲ派遣シ前年度

ニ於テ測定シタル下野國奈須四原ノ基線ニ基ツキ測前

照ヲ擴張セリ東南ハ上総ヨリ武藏相模伊豆遠江三河尾

張美濃伊勢山城大和ノ數國ニ涉リ北西ハ越後ヨリ上野
 越前加賀能登越中飛騨信濃若狹近江丹波丹後ニ達ス其
 撰定シクル測点ノ數合マテ三十有三十ナリ
 本年度三角測量測角ノ業ハ測角者三組ヲ派遣シ前年度
 以來撰定シクル常陸下総上野下野越後磐城佐渡等數國
 ノ各測点ニ連接シ測角ノ業ニ從事セシメタリ其卒業セ
 ル測点ノ數合マテ十有一ナリ然レモ其得ル所各点ノ經
 緯度方向距離高低等ニ至リテハ前年度ノ基線ニ連續シ
 テ之ヲ測定セサルヲ得ス其業至微至密ニシテ一朝夕ニ
 整理スヘキニアラス成功ヲ待テ之ヲ閣下ニ呈セントス
 國界測量ノ事業クル前年度ニ續キテ着手セシメ武藏相
 摸伊豆下総上野下野信濃甲斐ハ八國ニシテ本年度ニ於
 テ新ニ着手セシメ常陸ト磐城トノ國界常陸ト下総トノ

國界測量

國界トリ而シテ武藏相摸伊豆ノ三國ハ既ニ整理セリ
 武藏相摸伊豆三國ノ整理ニ由リテ測リ得タル計數武藏
 ハ相摸里程九十八里〇一二三沿海里程十八里一八六四
 國界周圍ノ里程百十六里〇三一〇面積三百九十方里〇
 四八二四ハ相摸ハ相摸里程四十八里五七七五沿海里程
 三十七里一一二二周圍里程八十五里六八九九面積百二
 十八方里四四二二伊豆ハ相摸里程十四里七〇六四沿海
 里程五十五里〇二五九周圍里程六十四里〇九五四面積八
 十七方里六〇六一ナリ今前年度ニ於テ測定セシメ安房上
 総二國ノ里程ヲ併セ下表ニ縮

國名	相摸	沿海	周圍	面積
武藏	九十八里〇一二三	十八里一八六四	三十七里一一二二	三百九十方里〇四八二四
伊豆	十四里七〇六四	五十五里〇二五九	六十四里〇九五	八十七方里六〇六一
安房	十四里七〇六四	五十五里〇二五九	六十四里〇九五	八十七方里六〇六一
上総	十四里七〇六四	五十五里〇二五九	六十四里〇九五	八十七方里六〇六一

常陸磐城ノ國界測量ハ多賀郡
 菊多郡ノ境ナル平瀨ヨリ着手シ今ヤ又惣郡白川郡ノ區

要地測量

域ニ在リ然ルニ常陸磐城ニ國ハ三角測量点既定ノ地ナ
 ルカ故ニ之ヲ三角測量点未定ノ地ニ比スレハ事業ノ進
 歩極テ迅速ニシテ許多ノ勞力ヲ省ケリ幸ニシテ天氣陰
 霽ナラサルヲ得ハ又シカラスニテ其結果ヲ閣下ニ報申
 スルヲ得ルナルベシ

要地測量ノ事業クル東京府下ノ如キハ測量着手中廢市
 街ノ妻換ニ遭遇シクルヲ以テ毎ニ許多ノ補測ヲ要シ大
 阪西京ノ如キハ製圖上火ニ一層ノ完全周密ヲ加ヘシテ
 以テ亦大ニ補測ヲ要シ皆意外ノ遷延ヲ生シタリ然レモ
 本年度ニ於テ東京西京大阪横濱等大抵其業ヲ結了セリ
 日ナラスレテ完全ナル精圖ヲ呈セントス

曆象ノ事業クル前年度ニ於テハ曆書ノ体裁ヲ改良セシ
 ヲ以テ其推算煩ル煩難ナリシニ本年度ニ至テハ事業既

編曆

測候

ニ整理ヒシヲ以テ現ニ明治十四年曆ノ如キ十三年一月
 ニ於テ太政官ノ允可ヲ得テ之レヲ頒曆商社ニ附スル
 ヲ得タリ猶曆學ノ進歩ヲ謀リ今ヤ造曆便捷及曆理訂教
 新纂ニ書ノ編修ニ着手セリ

氣象觀測ノ事業クル従前ニ在テハ本局測量課ニ於テ觀
 測ニ開拓使下札幌ノ測候表ニ比較セルノミナリシニ本
 年度ニ至テハ和歌山函館留萌測候所ノ開設ニ依リ始テ
 長崎廣島和歌山札幌函館留萌ノ六ヶ所明治十二年ノ氣
 象ノ比較スルヲ得タリ庶幾ハ本邦氣象ノ一斑ヲ窺フヲ
 得ニ今東京及六所ハ二月間現象ヲ比較スレハ左ノ氣象
 比較表ノ如ク毎三月ノ比較ヲ掲レハ七表ノ如ク全年ノ
 比較ノ掲ツレハ丙表ノ如シ

長崎氣象ハ地理局長崎測
 候所廣島ハ廣島縣和歌
 山ハ和歌山縣廳ニ於テ毎日三四時三十分
 及ヒ下邊ニ時三十分午後九時三十分ニ於テ觀測シタリ

各表

氣象ノ業
ハ學者五
ヶ年ヲ以
テ一期ト
ス本局氣
象觀測
ノ業ヲ創
メシヨリ
既テ二五
年ニ滿タ
ントス故
ニ東京既
往五年間

東京 毎三ヶ月氣象平均比較表

年	計雨晴			平均		最高		最低		平均		最高		最低		平均		最高		最低	
	日	時	分	日	時	分	日	時	分	日	時	分	日	時	分	日	時	分	日	時	分
一九一〇
一九一一年
一九一二年
一九一三年
一九一四年
一九一五年
一九一六年
一九一七年
一九一八年
一九一九年
一九二〇年

乙表 明治三十二年 每三ヶ月氣象平均比較表

地名	計雨晴				計暖寒				計雨晴			
	日	時	分	平均	日	時	分	平均	日	時	分	平均
長崎和東西
岡山
京都
東京
神戶
大阪
名古屋
福岡
仙台
札幌

丙表 明治三十二年 全年氣象平均比較表

地名	計雨晴		計暖寒		計雨晴	
	日	時	日	時	日	時
長崎和東西
岡山
京都
東京
神戶
大阪
名古屋
福岡
仙台
札幌

ノ月表ヲ
下ニ掲録
ス恨クハ
當初觀測
ノ素ヲ創
メシハ唯
夕東京ノ
ミナリシ
ヲ以テ
各所ヲ
通較ス
ル能ハ
ス

風無		風西北		風西		風西南		風南		風東南		風東		風東北		風北		カ風均平	
十	九	十	九	十	九	十	九	十	九	十	九	十	九	十	九	十	九	十	九
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
...

測候表ハ曩ニ英米伊露等ノ七國ト約シテ全時ノ觀
測表ヲ交換セシニ本年年度ニ至テ日身曼ヘルリシ清
國北京及ヒ「フイリツヒニ」島嶼測候所ノ請求ニ
ヨリ亦交換ヲ諾シタリ此ニ於テ海外諸國ノ交換ヲ
通スルモノ祇セテ十國ニ及ヒ始テ本邦ト其重ナル
地方トヲ比較スル「」ヲ得タリ而シテ温度高低ノ較
差太甚ナラス能ク中和ノ位置ヲ占タル「」本邦ノ如
キハ蓋シ異數中ノモノナリトス今氣象ノ差違ヲ揭
クシハ左ノ如シ
左表ハ緯度ニ由テ之ヲ列ス。陸度ハ
上ノ高ハ英尺ヲ用テ「」暗雨計ハ英寸ヲ用テ「」空
ハ華氏寒暖計ヲ用テ「」濕氣ハ透了ヲ百トス。雨
寸ヲ用テ「」緯度ニ於テ「」英寸於
テ度ノ下海面ノ高度ニ於テ「」英尺ノ下晴雨計ニ於テ「」英寸於
テ度ノ下空氣温度ニ於テ「」各國ノ測者疑訝ノ含ニテ「」自
下空氣温度ニ於テ「」各國ノ測者疑訝ノ含ニテ「」自
下空氣温度ニ於テ「」各國ノ測者疑訝ノ含ニテ「」自

地籍編制

地籍編制

地籍編制ノ事業ハ獨リ島根縣ニ於テ前年度ヨリ繼續着手セシ編制ヲ整了シタルノミ其統計タル國數五郡數三

十七村數二千四十浦數三十九町數二百九ノ宿數二十

又字數四十三万六千九百九十七ニシテ其筆數ハ三百十

七万八千四百零五其方積ハ九十三万三千九百七拾貳町

貳反六畝拾七步九厘八毛ナリ縣界未定地筆數八方積三

除ク今毎地種ニ就キ其筆數地積ヲ掲リレハ下表ノ如シ

文ハ地籍編纂ハ施治上ノ要務ナルカ故ニ縱令一時ニ編

了スルヲ能ハサルモ漸次之ヲ完備センテ一府縣毎ニ

明治十三年二月ヨリ以テ地籍編制費トシテ一府縣毎ニ

年々金九百圓ヲ別途下附セラレシメテ太政官ニ請求

ラレタリ表中ノ數位筆數ハ朱線ノ上ヲ半位又別ハ朱線

ノ上ヲ町位トス〇哇畔ハ未ク全管ノ調査ヲ了

本邦東京長崎及觀測表交換諸國氣象比較表

測候所名	緯度	經度	海面高	地理概畧	晴雨計	平均氣温	最高氣温	最低氣温	濕度	風速	日照	年
東京	35°41'N	139°45'E	4m	東京府東京市	1911.1	13.2	37.8	-5.1	75.2	1.8	1911.1	1911
長崎	32°49'N	129°57'E	10m	長門縣長崎市	1911.1	16.1	34.1	-2.1	78.1	2.1	1911.1	1911
...

地誌

スレハ其数二千六百四十七ヲ減レタリ

地誌

村誌ノ進達アリタル者ハ二百四十九卷郡誌ノ進達アリタル者ハ十卷ニシテ地方ノ名及ヒ其数ハ左表ニ明ナリ然レ氏局賞寡額人負多カラス終ニ陸前國宮城名取黒川三郡志ノ修正ニ着手スルニ過キス幸ニシテ来年度以後編修費ヲ増加セラルヘキノ允可ヲ得タルカ故ニ電報從事漸次國誌ニ着手セシメテ期ス

地圖ハ大日本全國圖大日本府縣管轄圖駿河甲斐伊豆三國圖安房上總下総常陸四國圖ヲ整理ス其校閲中ニカ、ル者ハ大日本府縣分轄圖越前加賀二國圖三河達江二國圖尾岐國圖陸中國國圖ナリ

合計	安房	伊豆	駿河	赤松	若子	長野	愛知	群馬	埼玉	新潟	長春	兵庫	府縣名	郡誌	村誌	計
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
30	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
40	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
50	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
60	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
70	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
80	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
90	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
100	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

土地所有
ノ
交換

其他ノ選考ハ北海道地誌提要阿波忌部郡考和名鈔郡郷考延喜式驛傳考日本地誌源委考ヲ卒ヘ郡名具同一覽藩屏沿革年表ニ着手セリ

土地所有交換

土地所有ノ交換タル官有地第一種ニ於テハ千貳百七拾九町八反〇〇四歩ヲ減少シテ第二種ニ於テ千四百五十四町六反九畝〇壹歩第三種ニ於テ四千九百七拾五町七反壹畝廿七歩ヲ増加シテ第四種ニ於テ百六拾町五反七畝〇貳歩ヲ減少シテ差引四千九百九拾町〇三畝廿貳歩ヲ増加セリ

民有地第一種ニ於テハ四百六拾七町六反三畝廿貳歩ヲ増加シテ第二種ニ於テハ百貳拾四町七反六畝〇三歩ヲ増加シテ差引五百九拾貳町三反九畝廿五歩ヲ増加セリ

而シテ官民未定地ハ五千五百八拾貳町四反三畝拾七步
 ヲ減少セリ
 是ノ如ク本年度ニ於テ所有ヲ変換シタル理由ノ重ナル
 モノヲ撮擧スルニ官有地第一種ニ於テ一千貳百町余ヲ
 減少セシメハ神社境外地ヲ区分シテ官有地第三種若クハ
 民有地第一種ニ組替ヘシニヨリ全第二種ニ於テ一千四
 百町余ヲ増加セシメハ新タニ官省用地ヲ増シ及ヒ更ニ郡
 区役所ヲ設ケシニ由リ全第三種ニ於テ四千町余ヲ増加
 セシメハ社寺境外地ヲ組替タルト官民未定地ヲ官地ニ帰
 シタルトニ由リ全第四種ニ於テ百町余ヲ減少セシメハ寺
 院境内地ヲ第三種ニ組入タルニ由レリトス
 民有地第一種ニ於テ四百町余ヲ増加セシメハ官民未定地
 ヲ民有ニ帰シ及ヒ官地ヲ民有ニ松下ケシニ由リ全第二

種ニ於テ百町余ヲ増加セシメハ新タニ道路溝渠堤防溜池
 墓地等ヲ設ケシニ由レリトス
 而シテ官民未定地ニ於テ五千町余ヲ減少セシメハ所有查
 定ニ由リテ官有地若クハ民有地ニ組替シニ由レリトス
 若シ夫レ本年度ノ所有変換ヲ以テ前年度ニ比較スレハ
 官有地第一種ニ於テ前年度ハ千貳百町余ノ増加アリシ
 ニ本年度ハ千貳百町余ノ減少アリシ全第二種ニ於テ前年
 度ハ九百町余ノ減少アリシニ本年度ハ千四百町余ノ増
 加アリシ全第三種ニ於テ前年度ハ三万四千町余ノ増加ア
 リシニ本年度ハ四千町余ノ増加ナリシ全第四種ニ於テ前
 年度ハ貳千七百町余ノ減少アリシニ本年度ハ百町余ノ
 減少ナリシ差引前年度ハ三万貳千町余ノ増加ナリシニ本
 年度ハ四千九百町余ノ増加ナリ

民有地第一種ニ於テ前年度ハ千百町余ノ増加ナリシニ
 本年度ニ於テハ四百町余ノ増加ナリシ全第一種ニ於テ前
 年度ハ九百町余ノ増加アリシニ本年度ハ百町余ノ増加
 ナリ差引前年度ハ千七百町余ノ増加ナリシニ本年度ハ
 五百九拾町余ノ増加ナリ
 而シテ官民未定地ニ於テ前年度ハ三萬四千町余ノ減少
 アリシニ本年度ハ九千五百町余ノ減少ナリ
 是ノ如ク本年度ト前年度トノ間ニ於テ所有地変換ニ増
 減アル理由ノ重ナル者ヲ撮擧スルニ官有地第一種ノ前
 年度ニ於テ千貳百町余ノ増加アリシニ本年度ニ於テ千
 貳百町余ノ減少アリシハ前年度ハ皇宮地及ヒ御陵墓神
 社地等ノ増加アリシニ本年度ハ右等ノ増加寡少ナルノ
 ミナラス却テ神社境外ノ減少セシニ由レリトス全第一種ニ

種ノ前年度ニ於テ九百町余ノ減少ナリシニ本年度ニ於
 テ一千町余ノ増加アルハ前年度ハ官廳用地ノ返付多カ
 リシニ本年度ハ却テ各種ノ試験場及ヒ郡區役所敷地ヲ
 要請シタルニ由レリトス全第三種ノ前年度ニ於テ三
 町余ノ増加アリシニ本年度ニ於テ四千町余ノ増加ナリ
 シハ前年度ハ官民有未定地ノ官有ニ帰シタル者社寺上
 地ノ官有ニ帰シタル者多カリシニ本年度ハ其數大ニ減
 シシニ由レリトス全第四種ノ前年度ニ於テ貳千町余ノ
 減少アリシニ本年度ニ於テ一百町余ノ減少ニ過キサル
 ハ前年度ハ社寺上地ノ官有ニ帰シタル者多カリシカ故
 ニ第四種ノ減少モ從テ多カリシニ本年度ハ社寺上地ノ
 官有ニ帰シタル者多カラサルカ故ニ第四種ノ減少モ從
 テ多カラサルニ由レリトス

民有地第一種ノ前年度ニ於テ一千町余ノ増加ナリシニ
 本年度ニ於テ四百町余ノ増加ニ過キサルハ前年度ハ官
 民未定地ノ民有ニ歸セシ者猶多カリシニ本年度ハ漸次
 結局シテ其數多カラサルニ由レリトス全第二種ノ前年
 度ニ於テ五百町余ノ増加アリシニ本年度ニ於テ百廿町
 余ノ増加ニ過キサルハ前年度ハ非常ニ溝渠堤防地ヲ組
 込又各種ノ工事ヲ施セシニ本年度ハ其數前年度ノ如ク
 ナラサルニヨレリトス
 而シテ官民有未定地ノ前年
 度ニ於テ三万町余ヲ減少セ
 シニ本年度ニ於テ五千町余
 ヲ減少セシニ過キサルハ官
 民有未定地ノ調査漸次ニ結

土地所有変換表

種別	本年		前年		前年差
	面積	割合	面積	割合	
官有地	1,234,567	12.3%	1,123,456	11.2%	111,111
民有地	8,765,432	87.7%	7,654,321	88.8%	1,111,111
未定地	543,210	5.4%	678,901	7.8%	-135,691
合計	10,543,210	100.0%	9,456,789	100.0%	1,086,421

土地所有
変換

局シタルニ由レリトス

土地所有変換

土地所有ノ変換タル皇官地及皇族賜邸地ニ於テ五町七
 反七畝拾八歩ヲ増加シテ御陵墓地ニ於テ八千三百五拾六町四反六畝
 八歩ヲ増加シテ社寺地ニ於テ八千三百五拾六町四反六畝
 〇七歩ヲ減少シテ官廳用地ニ於テ八拾壹町三反〇〇四歩ヲ
 増加シテ兵事用地ニ於テ八拾壹町九反九畝拾九歩ヲ
 増加シテ殖産用地ニ於テ千貳百七拾九町六反壹畝廿八歩
 ヲ増加シテ教育用地ニ於テ八拾壹町〇九畝廿六歩ヲ増
 加シテ慈善用地ニ於テ八拾壹町三反三畝廿六歩ヲ増加シテ宅
 地ニ於テ五拾壹町六反四畝〇七歩ヲ減少シテ耕池ニ於テ八
 百九拾八町壹反〇廿四歩ヲ減少シテ山林ニ於テ千四百七拾
 三町〇四畝〇七歩ヲ増加シテ草野ニ於テ八百拾七町九

又四畝拾七歩ヲ増加シ道路堤塘ニ於テ九拾町。七畝廿五歩ヲ増加シ河渠湖沼ニ於テハ廿七町九反畝拾五歩ヲ増加シ雜種地ニ於テ貳千四百五拾貳町六反畝廿五歩ヲ減サセリ

是ノ如ク本年度ニ於テ土地所用ヲ交換シタル理由ノ重ナルモノヲ撮拳スルニ皇宮地ニ於テ五町余ヲ増加セシハ新タニ附属地ヲ要セシニヨリ御陵墓ニ於テ貳町余ヲ増加セシハ区域擴張ノ為民地ノ買上ヲ要シ及ヒ更ニ御陵地ノ確定セシ者アルニヨリ社寺地ニ於テ千町余ヲ減少セシハ境内外地ヲ区分セシニ由リ官廳用地ニ於テ八拾町余ヲ増加セシハ警察署及ヒ更ニ郡區役所ノ設ケアリシニ由リ兵事用地ニ於テ貳百町余ヲ増加セシハ存城ノ査定及操練場等ノ設置アリシニ由リ殖産用地ニ於テ

千町余ヲ増加セシハ新クニ試験場ヲ設置セシニ由リ教育用地ニ於テ廿町余ヲ増加セシハ中小學校等ノ設ケアリシニ由リ慈善用地ニ於テ八町余ヲ増加セシハ病院及貧院等ヲ設ケシニ由リ宅地ニ於テ五拾町余耕地ニ於テ百町余ヲ減少セシハ官廳用地ニ賦納或ハ買上及道路改良ノ為ニ交換セシニ由リ山林ニ於テ千町余ヲ増加セシハ社寺境内外地ノ区分査定ニ由リ草野ニ於テ八百町余ヲ増加セシハ社寺境内外地ヲ区分セシニ由リ道路堤塘ニ於テ五拾町余ヲ増加セシハ新クニ道路ノ設ケアリシニ由リ河渠湖沼ニ於テ廿七町余ヲ増加セシハ田畝開闢ノ為ノ溜地ヲ設ケシニ由リ雜種地ニ於テ貳千町余ヲ減少セシハ未詳地目確定ノ為ノ各組換ヲ要セシニ由リトス

若シ夫レ本年度ノ所用変換ヲ以テ前年度ニ比較スレハ
 皇宮地及皇族賜郎地ニ於テ前年度ハ八拾町余ノ増加
 リレニ本年度ハ五町余ノ増加ナリ御陵墓地ニ於テ前年
 度ハ四町余ノ増加アリシニ本年度ハ貳町余ノ増加ナリ
 社寺地ニ於テ前年度ハ千五百町余ノ減少ナリシニ本年
 度ハ千三百町余ノ減少ナリ官廳用地ニ於テ前年度ハ千
 町余ノ減少ナリシニ本年度ハ八拾町余ノ増加ナリ共事
 用地ニ於テ前年度ハ百町余ノ増加ナリシニ本年度ハ貳
 百町余ノ増加ナリ殖産用地ニ於テ前年度ハ三拾町余ノ
 増加ナリシニ本年度ハ千貳百町余ノ増加ナリ教育用地
 ニ於テ前年度ハ九拾町余ノ増加ナリシニ本年度ハ廿町
 余ノ増加ナリ慈惠用地ニ於テ前年度ハ廿町余ノ増加
 リシニ本年度ハ八町余ノ増加ナリ宅地ニ於テ前年度ハ

六拾町余ノ増加アリシニ本年度ハ五拾町余ノ減少ナリ
 耕地ニ於テ前年度ハ三千六百町余ノ増加ナリシニ本年
 度ハ百九拾町余ノ減少ナリ山林ニ於テ前年度ハ三万
 八百町余ノ増加ナリシニ本年度ハ千四百町余ノ増加ナ
 リ草野ニ於テ前年度ハ三万三千九百町余ノ減少ナリシ
 ニ本年度ハ八百町余ノ増加ナリ道路堤塘ニ於テ前年度
 ハ三百町余ノ増加アリシニ本年度ハ五拾町余ノ増加ナ
 リ河渠湖沼ニ於テ前年度ハ百町余ノ増加アリシニ本年
 度ハ廿町余ノ増加ナリ雜種地ニ於テ前年度ハ千百町余
 ノ増加ナリシニ本年度ハ貳千四百町余ノ減少ナリ
 是ノ如ク本年度ト前年度トノ間ニ於テ土地所用変換ニ
 増減アル理由ノ重ナル者ヲ撮拳スルニ皇宮地及皇族賜
 郎地ノ前年度ニ於テ八拾町余ヲ増加シタリシニ本年度

於テ五町余ノ増加ニ過キサルハ前年度ハ皇官地及皇
 族賜郎地等ノ増加多カリシニ本年年度ハ右等ノ増加少キ
 ニ由レリトス御陵墓地ノ前年度ニ於テ四町余ノ増加ア
 リレニ本年年度ニ於テ貳町余ノ増加ニ過キサルハ前年度
 ハ御陵墓地確定ノ多カリシニ本年年度ハ右等ノ増加鮮少
 ナルニ由レリトス社寺地ノ前年度ニ於テ千五百町余ノ
 減少アリシニ本年年度ニ於テ千三百町余ノ減少ニ過キサ
 ルハ前年度ハ社寺境内上地敷分多カリシニ本年年度ハ上
 地敷分ノ減シタルニ由レリトス官廳用地ノ前年度ニ於
 テ千町余ノ減少ナリシニ本年年度ニ於テ八拾町余ノ増加
 アリシハ前年度ハ官廳用地ノ返付多カリシニ本年年度ハ
 却テ警察署及郡區役所敷地ヲ要請シタルニ由レリト
 ス兵事用地ノ前年度ニ於テ百町余ノ増加アリシニ本年

度ニ於テ貳百九拾町余ノ増加アリシハ前年度ハ操練場
 ノ設ケノミニ止マリシニ本年年度ハ操練場及砲廠ノ敷
 地ヲ要請シタルト存城地ヲ査定セントヨレリトス殖
 産用地ニ前年度ニ於テ三拾町余ノ増加ナリシニ本年年度
 ニ於テ千貳百七拾町余ノ増加アリシハ前年度ハ試験場
 敷地ヲ要スルノ僅々ナリシニ本年年度ハ殖産ノ事業漸ク
 地方ニ擴リ延テ其要請ノ多カリシニ由レリトス教育用
 地ノ前年度ニ於テ九拾町余ノ増加アリシニ本年年度ニ於
 テ廿町余ノ増加ニ過キサルハ前年度ハ中小学校及醫
 学校ノ設ケ最モ多カリシニ本年年度ハ稍結局シ其請求多
 カラサルニ由レリトス慈善用地ノ前年度ニ於テ廿町余
 ノ増加アリシニ本年年度ニ於テ八町余ノ増加ニ過キサル
 ハ前年度ハ病院及貧院等ノ設ケ多カリシニ本年年度ハ

官地
貸貸

ニ由レリトス

官地 賃貸

官地ノ賃貸ハ耕地ニ於テハ拾町八反〇〇歩ヲ増加シ
 宅地ニ於テハ拾町三反貳畝拾九歩ヲ増加シ
 道路堤塘ニ於テハ五拾五町九反八畝〇〇歩ヲ増加シ
 雑地ニ於テハ百九拾三町〇九畝廿九歩ヲ増加シ
 水部ニ於テハ百八拾貳町六反壹畝〇六歩ヲ増加シ
 合計九百五拾貳町八反壹畝廿五歩ヲ増加セリ

是ノ如ク本年度ニ於テ賃貸地ノ増加セシ理由ノ重ミナ
 ルモノヲ撮拳スルニ耕地ハ耕作ノ為ニ宅地ハ居住ノ為
 ノ道路堤塘ハ居宅ヲ営シ小家柵ヲナシ雑地ハ開墾ヲナ
 シ水部ハ育魚及ヒ採藻製氷スルカ為ノナリトス
 若シ夫レ本年度ノ賃貸ヲ以テ前年度ニ比較スレハ耕地

ルニ由レリトス河渠湖沼
 ノ前年度ニ於テ百町余ノ
 増加アリシニ本年度ニ於
 テ廿町余ノ増加ニ過キサ
 ルハ前年度ハ溜池及溝渠
 等ノ新設多カリシニ本年
 度ハ右等ノ設置少キニ
 由レリトス
 雑種地ノ前年
 度ニ於テ千百町余ノ増加
 アリシニ本年度ニ於テ貳
 千四百町余ノ減少アリシ
 ハ前年度ハ墓地新設及ヒ未詳地目等ノ組込多カリシニ
 本年度ハ却テ未詳地目組込ノ確定シ調査ノ結局シタル

合計	種 類										河 渠 湖 沼		道 路 堤 塘		野 草		山 林		
	小計	耕地	宅地	雑地	水部	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地	官地
5,488,000	5,488,000	1,234,567	876,543	321,098	654,321	109,876	210,987	321,098	432,109	543,210	654,321	765,432	876,543	987,654	1,098,765	1,209,876	1,320,987	1,432,098	1,543,209
5,488,000	5,488,000	1,234,567	876,543	321,098	654,321	109,876	210,987	321,098	432,109	543,210	654,321	765,432	876,543	987,654	1,098,765	1,209,876	1,320,987	1,432,098	1,543,209
5,488,000	5,488,000	1,234,567	876,543	321,098	654,321	109,876	210,987	321,098	432,109	543,210	654,321	765,432	876,543	987,654	1,098,765	1,209,876	1,320,987	1,432,098	1,543,209
5,488,000	5,488,000	1,234,567	876,543	321,098	654,321	109,876	210,987	321,098	432,109	543,210	654,321	765,432	876,543	987,654	1,098,765	1,209,876	1,320,987	1,432,098	1,543,209

本年度ノ無貸貸ハ及別多カラスト其本年度ニ於テ是ノ如ク無貸貸地ヲ増加セシ理由ノ重ヒナル者ヲ撮擧スレハ耕地ハ備荒倉建築ノ為メ宅地ハ瓦斯局敷地道路堤塘ハ水火災防禦器械藏置ノ為メ雜地及水部ハ開墾ノ為メナリトス

若シ夫レ本年度ノ無貸貸ヲ以テ前年度ニ比較スルニ耕地ハ前年度ニ於テ増加ナカリシニ本年度ハ尙反尙歩余ヲ増加シ宅地ハ前年度ニ於テ尙反尙歩余ノ増加ナリシニ本年度ハ九町歩余ノ増加アリシニ道路堤塘ハ前年度ニ於テ七反八畝歩余ノ増加アリシニ本年度ハ拾五歩余ノ増加ナリシニ雜地ハ前年度ニ於テ八拾五町歩余ノ増加アリシニ本年度ハ貳町九反歩ノ増加ナリシニ水部ハ前年度ニ於テ廿四町歩余ノ増加アリシニ本年度ハ三反歩余ノ増加ナ

リ之レヲ差引スルニ前年度ハ百拾壹町歩余ノ増加アリシニ本年度ハ拾貳町歩余ノ増加ナリキ

是ノ如ク本年度ト前年度トノ間ニ於テ無貸貸地ニ増減

ヲ生シタル理由ノ重ヒナル者ヲ撮擧スルニ耕地宅地本

年度ノ増加額前年度ノ増加額ニ踰ハサルハ瓦斯局設置

ト備荒倉設置トノ為メニセラル者ヲ多シトシ道路堤塘以

下本年度ノ増加額前年度ノ

増加額ニ及ハサルハ豈無貸

貸ヲ請フヘキノ箇所大率前

年度ニ於テ貸シ了リタルタ

故ニ本年度ニ於テ多額ノ増加ヲ呈セサルカ

官地外國人貸貸

外國人ハ、貸貸ハ東京ニ於テ四、千八百九拾八坪四合ヲ

計	水部	雜地	道路堤塘	宅地	耕地	官地		前年度差引高
						増	減	
一、二、四、七、五	〇、三、〇、三、六	二、九、五、五、六	〇、〇、〇、一、五	九、〇、八、二、六	〇、二、二、三、〇	増	減	〇、二、一、二、〇
一、二、四、七、五	〇、三、〇、三、六	二、九、五、五、六	〇、〇、〇、一、五	九、〇、八、二、六	〇、二、二、三、〇	増	減	〇、二、一、二、〇
一、二、四、七、五	〇、三、〇、三、六	二、九、五、五、六	〇、〇、〇、一、五	九、〇、八、二、六	〇、二、二、三、〇	増	減	〇、二、一、二、〇
一、二、四、七、五	〇、三、〇、三、六	二、九、五、五、六	〇、〇、〇、一、五	九、〇、八、二、六	〇、二、二、三、〇	増	減	〇、二、一、二、〇

増加シ神奈川ニ於テ三千八百八拾九坪三合ヲ増加シ兵
庫ニ於テ六百三拾三坪貳合ヲ減少シ大坂ニ於テ三百六
拾坪ヲ減少シ長崎ニ於テ六百拾壹坪八合ヲ増加シ差引
八千四百。六坪三合ヲ増加セリ

是ノ如ク本年度ニ於テ貸貸地ノ増減セシ理由ノ重モ十
ル者ヲ撮擧スレハ東京神奈川長崎ニ於テハ明地ヲ貸渡
シ又坪数ヲ訂正セシニ由リテ増加ヲナシ兵庫大坂ニ於
テハ貸貸地ヲ返納シ又ハ坪数ヲ訂正セシニ由テ減少ス
ルニ由レリトス

若シ夫レ本年度貸貸ノ増減ヲ以テ前年度ニ比較スレハ
東京ハ前年度ニ於テ三万坪余ノ増加アリシニ本年度ニ
於テハ四千坪余ノ増加ナリ神奈川ハ前年度ニ於テ七十
坪余ノ増加アリシニ本年度ニ於テハ三千坪余ノ増加ナ

リ兵庫ハ前年度ニ於テ増減ナカリシニ本年度ニ於テハ
六百坪余ノ減少アリ大坂ハ前年度ニ於テ三百坪余ノ減
少ナリシニ本年度ニ於テハ三百六拾坪余ノ減少アリ長
崎ハ前年度ニ於テ貳百坪余ノ減少ナリシニ本年度ニ於
テハ六百坪余ノ増加アリ新潟ハ前年度本年度トモ増減
ナシ開拓侯ハ前年度ニ於テ貳万六千坪余ノ増加アリシ
ニ本年度ニ於テハ増減ナシ差引前年度ハ六万六千坪余
ノ増加アリシニ本年度ハ八千坪余ノ増加ナリ
是ノ如ク本年度ト前年度トノ間ニ於テ貸貸地ニ増減ヲ
生シタル理由ノ重モ十ル者ヲ撮擧スルニ東京ハ前年度
ニ於テ新クニ清國公使館地ヲ貸渡シ又タ從前無貸貸ナ
ル公使館地ヲ組替ワリシニ本年度ニ於テハ是等ノ貸渡
シ及ビ記入ナカリシカ故ニ其増加前年度ノ如クナラサ

官地外國
人無賃貸

ルノミ」神奈川ハ前年度ニ於テ新クニ明地七千坪余ヲ賃
渡セシヲ以テ本年度ニ於テハ餘地多カラサルカ為ノニ
其増加前年度ノ如クナラサルノミ」其他兵庫大阪ハ前年
度ヨリ減少シ長崎ハ前年度ヨリ増加シ新潟ハ増減ナキ
モ其坪數僅クナルカ故ニ之ヲ以テ貿易ノ盛衰等ヲトス
ヘキ者ニアラス」開拓使ハ前年度ニ於テ從前賃渡シ置ク
ル坪數ヲ記入セシモ本年度ニ於テハ是等ノ坪數ヲ記入
スヘキ者ナキニヨリ亦タ前年度ノ如キ増加アラサルナ
リ

官地外國人無賃貸

外國人ヘノ無賃貸ハ諸港トモ増減ナシ
若シ夫レ本年度ノ無賃貸地ヲ以テ前年度ニ比較スレハ
東京ハ前年度ニ於テ貳万九千坪余ノ減少アリ」神奈川ハ

前年度ニ於テ一千九百坪余ノ減少アリ」開拓使ハ前年度
ニ於テ一千七百坪余ノ減少アリシニ本年度ハ皆増減ナ
シ」其他諸港ハ前年度本年度トモ増減ナシ」差引前年度ハ
貳万九千坪余ノ減少ナリシニ本年度ハ無増減ナリ
是ノ如ク本年度ト前年度ト

間ニ於テ東京神奈川開拓
使ノ無賃貸地ニ減少ヲ生シ
タル理由ノ重ミナル者ヲ撮
拳スルニ東京神奈川開拓使
ハ前年度ニ於テ無賃貸地ヲ

官地名稱	前年度		本年度		本年度差引高	前年度差引高
	坪數	増減	坪數	増減		
東京	42,845	増	40,945	減	1,900	2,800
神奈川	18,845	増	17,945	減	900	1,800
兵庫	6,635	減	6,635	増	0	0
大阪	6,635	減	6,635	増	0	0
長崎	6,635	減	6,635	増	0	0
新潟	6,635	減	6,635	増	0	0
小計	90,635	増	88,735	減	1,900	2,800
合計	90,635	増	88,735	減	1,900	2,800

賃貸地中ニ組替ヘタリシニ本年度ニ於テハ是等ノ組替
ナキヲ以テ別段ノ増減ヲ生セザリシノミ

土石借區

借區石

土石ノ借區ハ土ニ於テ百九拾坪ヲ増加シ、築石ニ於テ五
 千九百廿六坪ヲ増加シ、砂利ニ於テ三百坪ヲ増加シ、砥石
 ニ於テ貳百三拾四坪ヲ減少シ、砥粉ニ於テ貳千坪ヲ増加
 シ、板石ニ於テ六拾坪ヲ増加シ、白石ニ於テ増減ナシ
 是ノ如ク、砥石借區ニ減少ヲ生セシハ何ノ理由ナルヲ
 知ラスト、虫氏其他ノ土石ニ増加ヲ生セシハ工事ノ増進
 セシニ由ルナルヘシ

若シ夫レ本年度ノ借區増減ヲ以テ前年度ニ比較スレハ
 土ハ前年度ニ於テ増減ナカリシニ、本年度ハ百九拾坪余
 ノ増加アリ、築石ハ前年度ニ於テ貳百坪余ノ増加ナリシ
 ニ、本年度ハ五千坪余ノ増加アリ、砂利ハ前年度ニ於テ増
 加ナカリシニ、本年度ハ三百坪余ノ増加アリ、砥石ハ前年
 度ニ於テ増減ナカリシニ、本年度ハ貳百坪余ノ減少アリ

砥粉ハ前年度ニ於テ増加ナカリシニ、本年度ハ貳千坪余
 ノ増加アリ、板石ハ前年度ニ於テ増加ナカリシニ、本年
 度ハ六拾坪余ノ増加ナリ、白石ハ前年度ニ於テ百坪余ノ増
 加アリシニ、本年度ニ増減ナシ、差列前年度ハ三百九拾
 坪ノ増加ナリシニ、本年度ハ八千貳百四拾貳坪余ノ増加ナ
 リ

是ノ如ク、本年度ニ於テ、砥石ノ減少シタルハ其何故
 知ラス、白石ノ増減ナキハ
 蓋シ其各地備蓄ノ物産ニア
 ラザルニ由ルナラン、土、築石
 砂利、砥粉、板石ノ増加シタル
 ハ其額多カラスト、虫氏要ス
 ルニ、工事ノ増進セシニ由ルニ、アラサルヲ得ンヤ

表 借區石土

項目	本年度	前年度	差列
計	八五九三三七	三三七〇〇〇	五二二三三七
土	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇
築石	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	〇
砂利	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	〇
砥石	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇
砥粉	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	〇
板石	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇
白石	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇
合計	八五九三三七	三三七〇〇〇	五二二三三七

前年度差列高
 土 〇
 築石 〇
 砂利 〇
 砥石 〇
 砥粉 〇
 板石 〇
 白石 〇
 合計 五二二三三七

官地拂下

官地ノ拂下ハ耕地ニ於テ三百八拾六町六反八畝〇六歩
 増加シトハ本年度ニ於テ新塩田ニ於テ五町九反
 九畝拾八歩ヲ増加シ宅地ニ於テ拾五町四反五畝〇六歩
 ヲ減少シ減少トハ本年度ニ於テ一旦道路堤塘ニ於テ
 九反九畝〇〇歩ヲ増加シ雑地ニ於テ三百六拾町壹反壹
 畝廿六歩ヲ増加シ水部ニ於テ百六拾四町貳反三畝拾五
 歩ヲ減少シ差列五百七拾四町〇九畝廿九歩ヲ増加セリ
 是ノ如ク本年度ニ於テ松下地ノ増加セシ理由ノ重ナル
 モノヲ撮奪スルニ耕地塩田道路堤塘雑地ノ増加ハ緣故
 拂下又ハ入札松下ニヨリ宅地及水部ノ減少ハ百般ノ事
 故ニヨリ松下ヲ取消シクルニヨリトス
 若シ夫レ本年度ノ松下ヲ以テ前年度ニ比較スレハ耕地

ハ前年度ニ於テ六百拾壹町余ノ増加ナリシニ本年度ハ
 三百八拾六町余ノ増加ナリ塩田ハ前年度ニ於テ増加ナカ
 リシニ本年度ハ五町歩余ノ増加ナリ宅地ハ前年度ニ於
 テ百拾八町余増加ナリシニ本年度ハ拾五町歩余ノ減少ナリ
 道路堤塘ハ前年度ニ於テ三畝歩余ノ増加ナリシニ本年
 度ハ九反九畝歩余ノ増加アリ雑地ハ前年度ニ於テ百七
 拾町余ノ増加ナリシニ本年度ハ三百町余ノ増加アリ水
 部ハ前年度ニ於テ拾八町歩余ノ減少ナリシニ本年度ハ
 百六拾町余ノ減少ナリ之レヲ差列スルニ前年度ハ八百
 八拾貳町余ノ増加アリシニ本年度ハ五百七拾四町余ノ
 増加ナリキ
 是ノ如ク本年度ニ於テ拂下地ニ増減ヲ生ヒシ理由ノ重
 ナル者ヲ撮奪スルニ耕地宅地ハ緣故ニヨリテ拂下ク

事務
繁閑

務ノ進歩ニ從ヒ其整理ヲ要スルヲ以テナリ其算數ハ下
表ノ如シ

事務ノ繁閑

事務ノ繁閑ニ於テハ之レヲ前年度ニ比
シテ稍繁多ヲ覺フ蓋シ地質ノ一課ハ之
レヲ勸農局ニ付セラレシモ其他ノ事務
日ヲ追テ進歩スルヲ以テ整理上自ラ手
數ヲ要シ勢繁多ヲ加ヘサルヲ得サルニ
由レリ公文ノ數ハ下表ノ如シ

前年度ノ公文ハ山林局ト合掲シタルヲ以テ其増減
ヲ比スルトヲ得ス

公文		局長		指專		小計		小計		小計		小計		小計	
合	ノシ	決	シ	決	シ	決	シ	決	シ	決	シ	決	シ	決	シ
九三二九	七〇五五	一四七五	二六七一	二八八八	二一〇三	二五七三	五四四	四〇二	九三九	一〇二	二二二	六七	三		

戸籍局第五回年報